

介護職員・保険代理店・弁護士など
介護事故に関わるみなさまへ

**オンライン開催
参加自由・無料**

みんなで検討！



介護事故事例検討会のご案内

安全な介護では、毎月事故事例検討会を開催しています。主に特養や老健などの施設の介護事故事例を、みんなで検証したいと思います。介護職員や損害保険代理店や弁護士など、どなたでも参加は自由です(無料)。参加者に発言を求めることはありませんので、「事故カンファレンスの参考に聞いてみたい」という方もお気軽にご参加ください。

■ 事故事例検討会の進め方

事故事例を読み上げて、事例検討の方法をご紹介します。事例検討は下記の5つの視点で施設の対応に問題が無いかどうかを検討します。問題がある場合は、その改善策と一緒に考えてください。5つの検証の中で、一度だけグループ討議を交えて意見交換も行います。事前に事故事例に目を通してからご参加下さい。

次の5つの視点で事故を検証します。

1. 事故の過失の有無→防ぐべき事故だったのか？
2. 事故発生時の対処→マニュアル通り適切な対処ができたか？
3. 事故の原因分析→原因分析をしたか？それは適切だったか？
4. 再発防止策の検討→再発防止策を検討したか？それは適切だったか？
5. 事故後の家族対応→事故状況の説明など家族対応は適切だったか？

■ 開催要領

主催:株式会社安全な介護 協力:あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
日時:2023年1月25日 13:30~15:00

参加資格:リスクマネジメントに興味のある人はどなたでも参加できます

申し込み方法:下記のURLからお申込み下さい。締め切り後に参加招待状をお送りします。

<https://bit.ly/3L2I2Jn>

オンライン方式:ZOOMを使用します

締め切り:1月22日

【お問い合わせ先】

株式会社安全な介護 担当:山田

mail : info@anzen-kaigo.com

2024年1月の事故事例

介助中の転倒事故で骨折し入院先で肺炎で死亡、なぜ訴訟に？

●利用者の状況

○利用者の状況:男性 89歳 要介護5

■既往歴:脳梗塞、高血圧症、左半身麻痺(軽度)、認知症(重度)、

■ADL:歩行は自立だが不安定、入浴と排泄は一部介助、食事は自立で常食

■服薬:認知症進行抑制薬、血圧降下剤、抗血小板薬、睡眠導入剤、精神安定剤

●事故発生状況及び発生時の対応状況

重い認知症のNさん(男性89歳)は、半身麻痺は軽く車椅子から立ち上がり、他の利用者を叩くなどの迷惑行為をするので、職員は絶えず注意を払っています。キーパーソンの長男は穏やかな方で、Nさんの暴力などで施設に迷惑をかけていることを申し訳なく思っていました。ある時、入浴前の行為の介助中にNさんが「今日は入んねえ」と言い出し、説得するのに一苦労して入浴介助にこぎつけました。ところが、介護職員が身体を洗おうとすると、「出る」と言って立ち上がりそうになりました。介護職員はNさんの腕をつかんで座らせようとしたのですが、Nさんが馬鹿力で介護職員の腕を握り返したため職員が振り払おうとして転倒させてしまいました。病院に救急搬送しましたが、大腿骨骨折と診断され入院の上手術をすることになりました。

施設では、入院中も施設職員が見舞いに訪れ様々な援助をしたので、日頃から施設に好意的なキーパーソンの長男は、「ご迷惑をおかけしてすみません」と、治療費などの請求もしてきませんでした。しかし、その後入院先の病院でNさんは急激に身体機能が低下し衰弱が激しくなり、入院から2カ月後に肺炎で急死してしまいました。

●事故後の家族への対応

Nさんの葬儀に参列した施設長に対して、東京に住んでいるという次男が「父の転倒・死亡事故について施設に法的責任があるのではないか？」と言いました。長男は「施設のみなさんには本当に良くしていただいたのに失礼なことを言うな」とたしなめました。葬儀の後にも長男が施設にやってきて、「次男は大学から東京に行ったままほとんど戻らないので、こちらの事情が分からず失礼をしました」と恐縮していました。ところが、1カ月後次男が施設を相手取って「Nさんが転倒して死亡したことについて施設に過失がある」と賠償訴訟を起こしました。